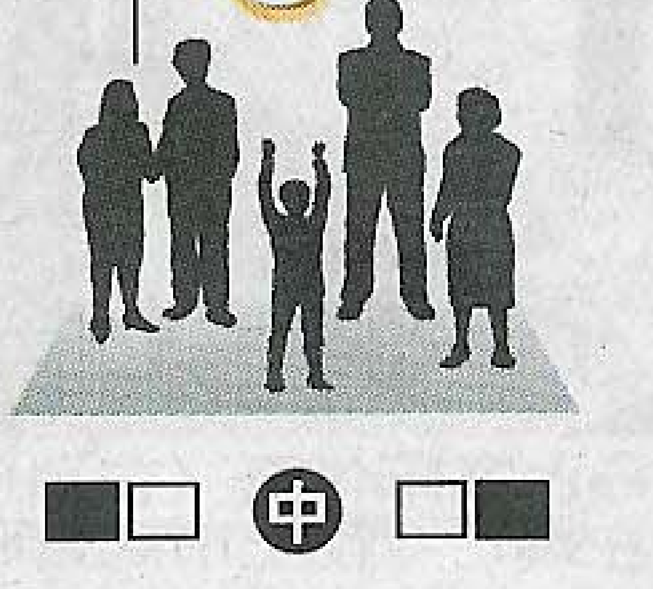
地球の裏側で

南米の日系社会は今



■□ 中 □■

副大臣は次の進出期待

「粒がそろってきれい」。南米・アルゼンチンの首都ブエノスアイレス市から、百二十㌔北のパラデーロ市。ここにあるギアリンクス社（美濃加茂市）の農場で、収穫した大豆などを手にとった参加者は、出来を高く評価した。

県内企業出資の農場

同社は、国際協力機構（JICA）が移住事業のために保有していた農地千二百五十㌶を六千七百万円で購入し、事業を始めた。国から県に打診があったのは十年前。県に協力を求められた県内企業が出資した。

「食糧危機などの際に優先的に県が食糧の供給を受けられる」ことが目的。だが「食糧危機が来るのか。国の尻ぬぐいでは」と厳しい見方も。古田肇知事は、現地で同社がどう評価されているのかを気にしていた。

「成功です。第二、第三の進出を期待している」。古田知事が面談したアルフレド・キアラディア外務副大臣はこう言明した。前駐日大使で、岐阜を訪れたこともある副大臣。県民投資の会社に注目していた。

ギアリンクスは二〇〇三年に試験栽培を始め、昨年は前年の倍となる二千㌧、七千万円を出荷。バイオエタノール増産に伴う穀物相場の高騰に加え、近隣の農場の生産物を集めて出荷するようになり、売り上げは十倍に跳ね上がった。

「安心して買い付けできる農地は世界的にあまりない。ここは有機栽培しており、買い付け先に組み入れてもいいかな」。視察した岐阜米穀代表取締役の小塩幹雄さん（五六）も将来性を見込んだ。

十年前には想像もしなかった食糧危機が現実の問題となり、大きな追い風に乗るギアリンクス。しかし、アルゼンチン政府が農産物の課税大幅引き上げを表明していることと、土地の価格も急上昇しており、二つが壁となって新規参入はけっして容易な状況ではない。

「社名が『リンク』だが、本当に岐阜に供給されるのか」。同行の県議らに懐疑的な見方も。実際、協定書に非常時の食糧供給についてルートや価格など具体条件は触れられていない。

「協定書をよく見直してみないと」と古田知事。地球の裏側でようやく実った〝果実〟を、岐阜で口にする思いを新たにした。

ギアリンクス

「ギ」は岐阜、「ア」はアルゼンチン。県内91人の株主から出資金２５５０万円を集めて２０００年12月設立。社長は中津川市のサラダコスモ社長中田智洋氏。資本金は現在９９９０万円。耕作は地元の営農会社に任せ、大豆やトウモロコシ、小麦、ヒマワリなどを栽培している。

「ギアリンクスは成功した」と古田知事らに語るキアラディア外務副大臣（左列中央）＝アルゼンチン・ブエノスアイレス市で

Productos Organicos de Primera Calidad
CAMPOS DE GiA Links
私たちは、この国の人々の協力をいただいて、この広大な農地で、日本の〈安全・安心〉食糧確保をめざしています。
㈱ギアリンクス
Campo Baradero I de GiA Links Argentina s.a.
buenos aires

ギアリンクス社が経営する農場＝アルゼンチン・パラデーロ市で